# 旅立つ君へ

【特集 2】親から我が子へのメッセージ

３月は卒業シーズン。
高校を卒業し、進学や就職などで
自分の夢に向かって走り出す節目のときでもあります。
今月号では、就職や進学で次のステージへと
進む子どもへ親からのメッセージを紹介します。

## 旅立つ娘へのメッセージ

小林秀峰高校から愛知県に就職

**有島（ありしま） ひとみ さん（母）**
**若菜（わかな） さん（子）**

４月から愛知県に就職が決まっている若菜さん。母ひとみさんに、18 年間の思いを聞きました。

# 失敗することもあるだろうけど 感謝の気持ちを忘れず 乗り越えてくれると信じています

*Message*
*～ Mother to Daughter ～*

### 地域に育てられ 成長を感じています

18年間は本当にあっという間でした。生まれてきて、夜泣きが激しかったあの頃をつい昨日のことのように感じます。

小学校に入学したころ、うまく娘とコミュニケーションがとれていないなと思い悩むこともありました。そんなとき、支えてくれたのは地域の人たちでした。自分も育った地域だからこそ、同じ場所で子どもを育てられたことは本当に良かったと思っています。そのおかげでのびのびと成長してくれたので、感謝の気持ちでいっぱいです。

中学・高校では、生徒会長や学級委員、部活動のキャプテンなど、自ら進んでやっていました。また、就職活動が始まり、都会に1人で行くことも多くなったとき、何事もないようにしている姿には、成長を感じました。娘には「積極的に行動できる人になってほしい」と思っていたので、すごくうれしく感じていました。

どんなときでも、笑顔で乗り越えられる人になってくれたのではないかなと思っています。

### 娘が決めた道だから 精一杯応援したいです

4月からは、愛知県に就職するため、私のもとから離れることになります。本人は「不安はなく楽しみな気持ちでいっぱい」と言っていますが、親としては心配だし、不安です。働き始めると、失敗することもあると思います。娘には、感謝の気持ちを忘れないこと、そして他人に迷惑をかけず、一つずつ乗り越えていってほしいです。

小林に残ってほしいとも思いましたが、娘が決めた道だから、離れていても精一杯応援しますし、つらいことがあったときは「いつでも帰ってきてね」と伝えたいですね。

## 旅立つ娘へのメッセージ

小林高校から鹿児島県に進学

# 大久津（おおくつ） ひとみ さん（母）
# 知里（ちさと） さん（子）

４月から鹿児島県の大学に進学が決まっている知里さん。母ひとみさんに、18年間の思いを聞きました。

Message ～ Mother to Daughter ～

## 今までとは違う環境の中で 勉強はもちろん、さまざまなことを経験してさらに成長してほしい

### 志望校に合格してほっとしている

娘は、3人兄妹の末っ子で、小さいころからどんなことにも几帳面に取り組む子どもでした。忘れ物をするようなこともほとんどありませんでしたし、小学校の宅習なんかもびっしり隅から隅まで埋めるなど、がんばり屋さんでした。

その一方で、責任感や正義感が強いところがあり、さまざまなことで悩みを抱える姿も見てきました。けれど、本人のがんばりはもちろん、周りの友達や先生などにも恵まれて、一つずつ解決していってくれたので、本当によかったと思っています。そういった経験があったからこそ、おとなしい性格の中にも粘り強さを兼ね備えた人間に成長してくれたんじゃないかなと思っています。

特に高校3年生になってからは、受験勉強をがんばる姿をずっと見てきました。休みの日も学校に行って勉強をしていたので、今は志望校へ合格できて、ほっとしている気持ちでいっぱいです。

### 地域の力になれるようさらに成長してほしい

私自身は、小林から出たことがなかったので、子どもには一度は外の世界を見てもらいたいと思っていました。大学では勉強はもちろんですが、今までと違う環境の中でたくさんの新しい経験もできると思います。さらに成長できる4年間にしてもらえればうれしいですね。

しかし、末っ子ということもあり、がんばってくれると期待している一方で、家を離れていってしまう寂しさや大丈夫かなという不安もあります。

本人は「大学を卒業したら小林に帰ってきて仕事をしたい」と言っているので、地域のためになれるような人になってくれることを信じています。



## Voice 県外に就職し小林に戻ってきた青年

冨永林業
（須木奈佐木地区）
冨永（とみなが） 剛（ごう） さん

### 都会に出たからこそ学べたこともある それをこのまちで生かしていきたい

高校卒業後、横浜の石油会社に就職しました。家業の林業をいつかはしたいと思っていましたが、一度都会に出て自分がどれだけ社会で通用するのか、試してみたいという思いがあったので、小林を出ることを決めました。実際に４年働いて、大手企業ならではのマニュアルの整備による効率的な仕事の進め方など勉強になることはたくさんありました。その一方でプライベートでは、都会は遊ぶところも多く楽しい場所ではありましたが、どこか人の繋がりが希薄に感じる部分もあり、僕には合わないなとも感じていました。３年目のころに仕事を続けるか悩みましたが、地元に帰って林業をしたいという思いが強かったので、昨年小林に戻ることを決めました。今は、仕事もプライベートも充実した毎日を過ごせています。これからは、都会に出て学んだことをこのまちで生かしていきたいと思っています。

## Voice イベントを通した郷土愛の醸成

野尻町商工会青年部長
のじり湖祭実行委員会
西（にし） 篤志（あつし）さん

### 夏休みの子どもたちの思い出のために この思いを引き継いでいきたい

毎年８月に開催されるのじり湖祭は、野尻を盛り上げたいという思いとともに、夏休み期間中の子どもたちの思い出づくりのために開催しているものでもあります。これは先輩たちから引き継いだ思いですが、最近は若手が集まらず、実行委員のほとんどが固定メンバーとなっていました。そこで、３年前から高校生に実行委員会に参加してもらうようにしました。祭りを開催する思いや裏方の仕事などを経験してほしかったからです。そして昨年、企画１年目に参加してくれた高校生が社会人になり実行委員に入ってくれました。僕たちの思いが伝わったのかなと思うと本当にうれしかったです。僕自身、中学２年と小学６年の子どもがいるので、このまちに帰ってこれる場所を作りたいという思いもあります。まずは、野尻を好きになってもらう活動、そして商工会として働く場所を守る活動をしていきたいと思っています。

### 自分の夢に向かい 歩み始める若者たち

3月、高校を卒業する若者たちの多くは、就職や進学で市外へと旅立っていきます。

今回取材をした、有島さんと大久津さんも高校を卒業し、それぞれの夢に向かって歩み出します。そして、それを見守る母親に共通していたことは「寂しい気持ちはあるけど、応援したい」という思いでした。

また、自分の力を都会で試したいと一度横浜に就職した冨永さんは、「大変なこともあったけど、帰る場所があるから4年間がんばれた」とも話していました。

### 「帰ってくる場所」 そう思えるまちに

これから旅立つ若者にとっては、このまちに応援してくれる人がいることが何より力になるはずです。そして応援するなかで、西さんのように「いつかこのまちに帰ってきてほしい」という思いで活動する人も市内にはたくさんいます。

「都会にでる」、「地元に残る」。若者たちがどちらの選択もできるように。「帰ってくる場所がある」。そう思えるまちにしていくことが大切なことです。

**「帰ってくる場所がある」この思いが、夢に向かい走り出す若者たちの力につながるはず―。**